

最近、農業向け融資を前向きに取り組む銀行が増えてきています。とくに農業地帯でそうした傾向が目立っています。農業向けは農協。企業や商工業者、サラリーマンは銀行や信金・信組。金融機関はずっとこんな風に色分けされてきましたが、この垣根がすっかり低くなったようです。中には銀行VS農協の仁義なき闘いもあるそうです。山形や新潟では「殖産銀行ブーム」というのが農業経営者の間で起きています。地方銀行の農業分野への積極姿勢の背景や原因には何があるか。これに対する農協の防御策はあるのか。この点について教えてくれませんか。

このコーナーでは、農業をめぐるわかりにくい疑問や解決しにくい問題に、ジャーナリスト土門剛氏が答えます。さて、今回の質問は？

# 拡大版

Q・金融機関同士の競争が激しくなってきた背景や原因から説明して下さい。

A・ズバリ、金利競争が背景にあるんだ。それに金融ビッグバンが追い風になっている。これが大きいね。

Q・その金融ビッグバンとは何ですか。

A・簡単に説明しておこう。一つ例を挙げれば、銀行、証券、保険。業態の垣根がなくなってしまう。銀行でも保険や証券を扱えるようになる。相互参入で競争は一段と激しくなり、利用者の利便性がよくなることだな。今より簡単に金融業務に参入できる。セブイレブンが証券業に乗り出して、株や債券も24時間扱うような新サービスを始めるかもしれない。

Q・金融ビッグバンの第一弾が外為法改正と新聞に報じられていましたが、それ

はどういう意味ですか。

A・よく知っているね。今の法律では、大蔵大臣の認可なしに、定額以上の通貨は持ち出せないことになってるんだ。それが自由に持ち出せる。ロンドンやニューヨークの銀行で預金口座も持てるようになるんだ。

Q・英国や米国では5%や6%の金融商品があると聞いていますが・・・

A・そうなんだ。外為法改正が施行される来年4月以降は、海外旅行でロンドンやニューヨークを訪れた際、向こうの銀行にドルやポンドで預金ができるようにするんだ。むろん金利は5〜6%台。日本の銀行とは比べものにならない数字だよ。むろん為替リスクはあるがね。ドルで預金するわけだから、引き下ろす時点で預けた時より円高になっておれば、その分、為替差損は生じるんだ。それでも日本の銀行や農協は二年定期でも0.3%台だからね。ある程度為替リスクがあっても魅力的に映るだろうね。

Q・日本の金融機関の超低金利はどうなりますか。

A・金融ビッグバンでいざれ吹っ飛ぶと思うね。壮烈な金利競争が起きるんだよ。超低金利しか出せない金融機関はお客からソッポを向かれる。マーケットから「退場宣告！」だ、それは融資にも言え

ることだ。貸し出し金利の高い金融機関はアウトになるんだ。前置きが少々長くなったけれども、以上が殖産銀行が農業分野に積極進出する土壌なんだ。

Q・ビッグバンの前哨戦のようなもの。

A・そうともいえる。

Q・殖産銀行とはどんな銀行ですか。

A・殖産銀行は山形に本拠をおく第二地銀だが、県内には山形銀行、山形しあわせ銀行、荘内銀行など地銀や第二地銀だけでも4行がひしめきあっている。以前から中堅企業や個人層との取り引きを推進してきたが、前門の虎、後門の狼ではないが、そんな簡単に優良顧客を開拓することができない。そこで発想を逆転させ、農協の独占マーケットだった農業分野に殴り込みをかけることになったんだ。

Q・もつと具体的に説明して下さい。

A・殖産銀行が農業分野に殴り込みをかけるきっかけは、昨年12月に発売した「未来農園」という新商品なんだ。パンフレットには刺激的なことが書いてあるね。「意欲的に農業の将来を思考し、現状の農業経営に対し改善を求めている将来的に核となり得る層にターゲットを絞り、積極的に対応させて頂く。新食糧法に対応する、画期的な商品で他行に先駆け発売します」。まあ農協から優良農家、

# 山形・新潟における



# 殖産銀行ブーム

青色申告者で、かつ黒字経営者を対象としているが、赤字でも同友会の会員になれば、同友会の会長の確認書があれば、赤字経営でも融資に応じるということだ。

Q: 同友会とは何ですか。

A: 同友会は、農業者が5人以上であれば結成できる、一種の連帯保証組織だ。農村社会の特質をうまくとらえているね。ドブ板をやってきたローカル・バンクならではの知恵だ。融資の際に、銀行に提出する資料も、経営の中身が分かるものばかりだ。青色申告書または二期間以上の決算書、固定資産名寄台帳、納税証明書、経営の概要、借入申込書、返済財源の確認資料だ。いずれも農業経営が見通せる資料の提出を求めているんだ。経営という視点から融資に応じようという姿勢だと思うよ。ごく当たり前のことだがね。農協は農協に出荷しない農家や減反を守らない農家には融資しないとか、馬鹿なことを今でもやっている。これじゃ、優良農家は逃げていく。

Q: それじゃ農協には「落ちこぼれ」農家ばかりが残ることになるのですか。

A: 農協が銀行に勝てるような金利を出さないと、農協には「落ちこぼれ」しか集まらないだろうな。組合員だから農協を利用せよといってもね。金利が倍も高いとそうはいかないよ。

Q: 農協が銀行に対抗する妙案はありますか。

A: 徹底的な合理化と職員の資質向上

だ。全国農協中央会でも、全国で職員の3割は余っていると認めているくらいだ。本当は5割くらい余っているのではないか。2人に1人は整理しないと農協の経営はやっていけないよ。それに職員の資質だ。銀行マンと比べると、思わず「ウーン」とうなってしまう。

Q: それで「未来農園」は増えていますか。

A: 増えているそうだな。殖産銀行は隣の新潟県にも支店があつて、そこでも農家に積極アプローチをかけているようだな。それに決済スピードも早い。農協なら月に一度開く理事会で融資の可否について決済する。銀行は多少の額なら支店長レベルに決済権限を落としてある。それに余計なことをごちゃごちゃいわない。すべてビジネス・ライクに進める。金融業務に関わるスタッフが違うんだ。

Q: ほかの銀行の動きはごどうですか。

A: 金融ビッグバンで農業分野に積極進出の動きは強まるね。欧米の銀行が、日本の都銀のマーケットを喰う。都銀は地銀のマーケットに進出。地銀は、第二地銀や信金信組のマーケットに。第二地銀や信金信組が農協のマーケットにというアフリカのジャングルのようなことが起きそう。そこで猛烈な金利競争が確実に起きる。おかげでお客さんは大喜びだ。

農協は、本当にリストラをやらないと、優良組合員は誰もいなくなったということになりかねない。

Q: よく分かりました。

## 「未来農園」の金利体系

金額	担保	保証人	利率 (同友会員)
500万円まで	無担保	妻・所有者	3.175% (2.75%)
	有担保	妻・所有者	2.875% (2.50%)
1000万円まで	有担保	妻 所有者	2.875% (2.50%)

いや農業経営者を一本釣りしますよと宣言布告してみたいだな。

Q: 刺激的ですね。それで金利はどうですか。

A: だいたい農協より2%は安いね。庄内地区の農協の貸し出し金利は、やっこの春から5%になったということだ。

Q: 同じような条件の「未来農園」の商品では、有担保の同友会員向けが2.5%ですから、ちょうど半分ですね。

A: 農協は、組合員から預かった貯金には二年定期でも0.3%しかつけないのに、貸出金利は5%もとる。この金利水準でないし農協の経営はやっていけないということだな。それだけ人が多くてコストがかかっているということだよ。金融ビッグバンどころではないね。

Q: 誰でも借りられますか。

A: 誰でもというわけではなさそうだが、前向きに経営をしている農業者なら個人、法人を問わず大丈夫ということだよ。